

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟医療福祉大学 第12研究・実習棟 新潟県新潟市北区島見町字大道1355番1外17筆 第1種中高層住居専用地域、法22条指定区域 学校, 2025年1月 予定 2,500.00 m ² 1,439.76 m ² 4,827.81 m ² 地上4F S造 実施設計段階評価 2024年3月29日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55.4}{32.6} = 1.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全 に使い続けるために	平均スコア 3.3		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	3.0 3.5 3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産 を守るために	平均スコア 3.0		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのた めに	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.0		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	5.0 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づく りのために	平均スコア 3.0		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	1.0 3.0 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代 に引き継ぐために	平均スコア 3.5		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	4.0 3.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の個性や魅力を活か したまちづくりのために	平均スコア 3.5		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	3.0 4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

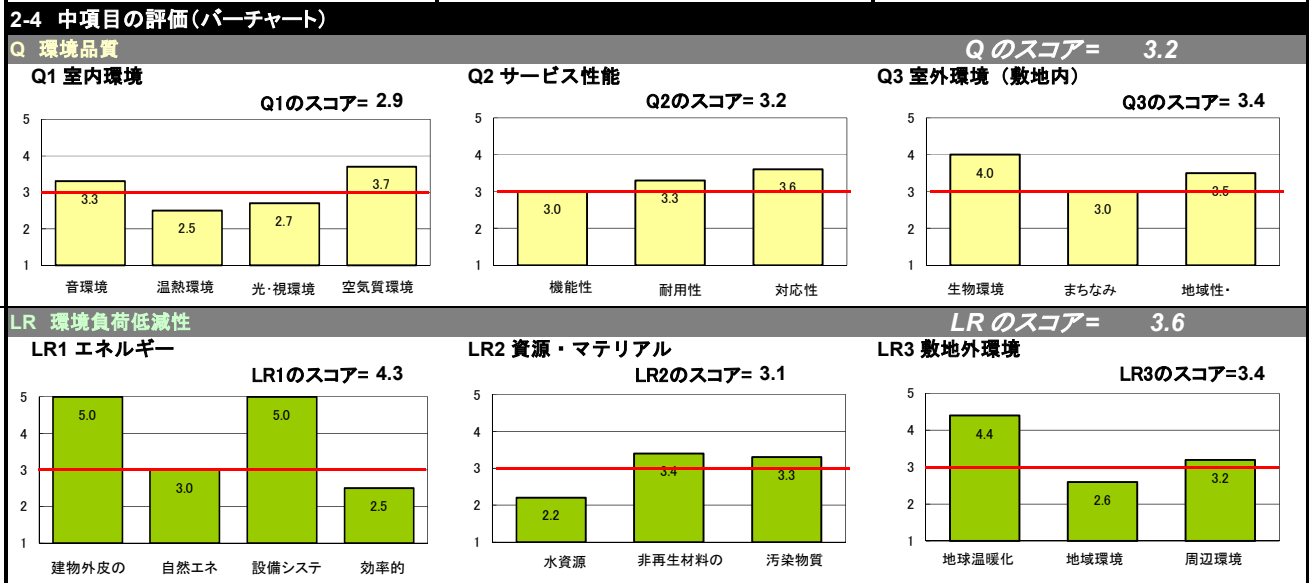
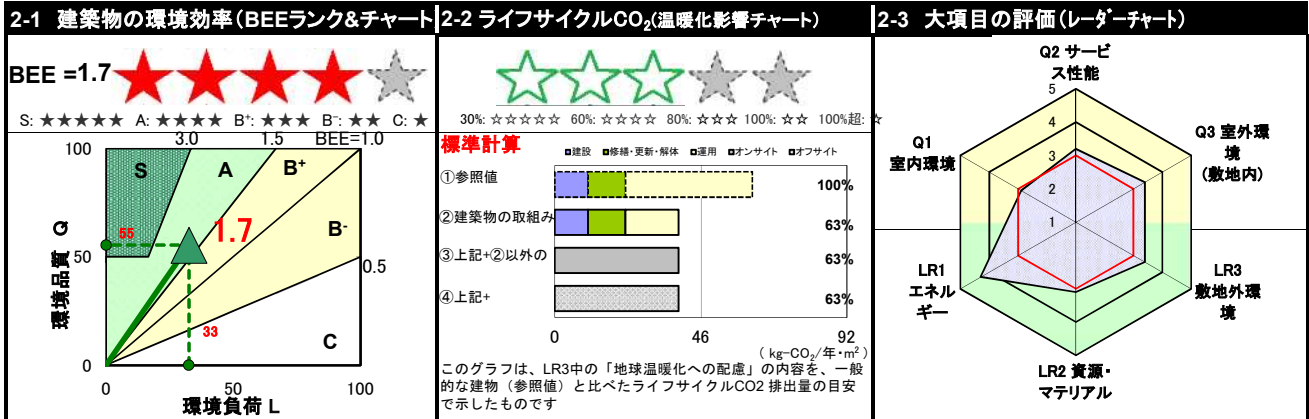
- ・内装は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。
- ・補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
- ・LGS下地により躯体と仕上材が容易に分別可能、移動間仕切りを採用し、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
- ・緑地を設けることにより良好な景観を形成、ピロティを地域に開放し、地域活動やにぎわいに貢献している。

CASBEE新潟

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟医療福祉大学 第12研究・実習棟	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市北区島見町字大道1355番1外17番	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、法22条指定区域	平均居住人員	1,400 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,770 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2024年3月29日
敷地面積	2,500 m ²	作成者	株式会社クレイズプラン
建築面積	1,440 m ²	確認日	2024年3月29日
延床面積	4,828 m ²	確認者	株式会社クレイズプラン



3 設計上の配慮事項		その他
総合 バルコニーによる日射抑制、高断熱化、設備システム高効率化等省エネルギー手法を用い、太陽光パネルの設置による創エネルギーを想定することで正味消費エネルギーを0としつつ、快適な環境で学習ができる施設としている。		Q2: 補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
Q1 室内環境 断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。カーテンや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内装は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。移動間仕切りを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を低減し、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される